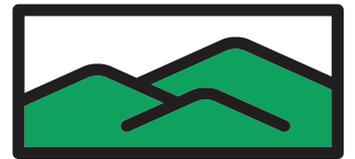


日本山岳遺産基金通信



日本山岳遺産基金
JAPAN MOUNTAINS HERITAGE FUND

新たに認定した日本山岳遺産と当基金の活動についてご報告いたします。

2018年度の日本山岳遺産が決定。 本年度は4地域／団体を認定しました

本年度の日本山岳遺産の認定にあたっては、山岳環境保全や安全登山啓発、次世代育成を目的に、各地域に根差した独自の活動を続けている12の団体から申請がありました。申請の応募数としては、当基金の発足以来、最多となりました。

5人のアドバイザリーボードの助言のもと、事務局で検討の結果、大雪山・黒岳／大雪山・山守隊、トムラウシ山／新得山岳会、飯豊山／飯豊朝日を愛する会、鹿沼市・岩山／機動パトロール隊の4地域／団体を認定しました。各認定団体には助成金を支給す

るほか、山と溪谷社／日本山岳遺産基金の雑誌やウェブサイトなどの媒体を活用し、団体の活動を広報していきます。2019年2月に東京・神田神保町で開催する第9回「日本山岳遺産サミット」では、各地域／団体の認定式と活動紹介を行います。また、今回の認定によって、2010年度のスタートから日本山岳遺産の数は合計30地域／団体となりました。

なお、各団体への助成金額については、申請内容を鑑みて調整し、本年度末（2019年3月末）に支給の予定です。

- 1 榊山 (山梨県)
榊山ネットワーク
- 2 小金沢シオジの森 (山梨県)
シオジ森の学校
- 3 乙女高原 (山梨県)
乙女高原ファンクラブ
- 4 石鎚山 (愛媛県)
久万高原町
- 5 早池峰山 (岩手県)
早池峰にゴミは似合わない実行委員会
- 6 九州中央山地五家荘エリア (熊本県)
泉・五家荘登山道整備プロジェクト
- 7 夕張岳 (北海道)
ユウバリコザクラの会
- 8 七時雨山 (岩手県)
七時雨ロマンの会
- 9 臥龍山 (広島県)
芸北自然保護レンジャー
- 10 アボイ岳 (北海道)
アボイ岳ファンクラブ
- 11 金華山 (宮城県)
特定非営利活動法人FIRST ASCENT JAPAN.
- 12 船窪岳 (長野県・富山県)
船窪小屋・道しるべの会
- 13 大台ヶ原大杉谷 (三重県)
公益社団法人大杉谷登山センター
- 14 吾妻山 (福島県)
吾妻山自然倶楽部
- 15 鉾ノ峰 (長野県)
長野県大町岳陽高等学校山岳部
- 16 徳本峠 (長野県)
古道徳本峠を守る人々
- 17 南木曾岳 (長野県)
南木曾山士会
- 18 三嶺 (高知県・徳島県)
三嶺の森をまわるみんなの会
- 19 美瑛富士 (北海道)
山のトイレを考える会
- 20 嘉穂アルプス (福岡県)
嘉穂三山愛会
- 21 ニツ森 (秋田県)
秋田白神コミュニケーションセンター
- 22 岩手山 (岩手県)
岩手山地区パークボランティア連絡協議会
- 23 三ツ峠 (山梨県)
三ツ峠ネットワーク
- 24 霧ヶ峰 (長野県)
霧ヶ峰草原再生協議会
- 25 入笠山 (長野県)
入笠ボランティア協会
- 26 伯耆大山 (鳥取県)
グラウンドワーク大山蒜山



●大雪山・黒岳 (北海道)
一般社団法人 大雪山・山守隊



●トムラウシ山 (北海道)
新得山岳会



●鹿沼市・岩山 (栃木県)
機動パトロール隊



●飯豊山 (山形県・新潟県・福島県)
特定非営利活動法人 飯豊朝日を愛する会

①～⑳ は昨年度までに認定の日本山岳遺産

2018年度 日本山岳遺産認定地・認定団体の紹介

北海道

大雪山 黒岳

認定団体 一般社団法人 大雪山・山守隊

山の概要

大雪山国立公園は2268平方キロに及ぶ日本最大の国立公園。その北東に位置する黒岳（1984m）は、火山性的大雪山のなかでも珍しく頂上付近まで緑が濃く、豊かな自然を有する。起点となる層雲峡からはロープウェイがあり、七合目まで手軽に登ることができるため入山者も多い。山頂からは凌雲岳（2125m）、北鎮岳（2244m）、北海岳（2149m）など大雪山系の山々が見渡せる。

認定理由

2011年、有志によるプロジェクトとして活動開始。2018年3月、任意団体から一般社団法人に改組。登山道整備活動「たまには山に恩返し」を定期的に行う。浸食の進んだ荒廃登山道とその周辺の生態系に対し、できるだけ景観を変えないよう配慮した「近自然工法」による登山道整備を実践している。

認定理由

営業小屋のない山域で、持続可能な登山道維持活動を模索・継続している点、行政や研究機関と協働し、一般のボランティアも巻き込みながら活動を広げている点などを評価。



左／高山植物群を土砂から守るため、豪雨によって崩れた土を土嚢袋に詰めて運び出していく 右／愛山溪での木柵階段設置作業の様子

北海道

トムラウシ山

認定団体 新得山岳会



左／裸地化したトイレ道の植生復元をめざす 右／「トムラウシ山南沼 汚名返上プロジェクト」ののぼり旗を手に

山の概要

大雪山国立公園のほぼ中央に立つ標高2141mの山。「大雪の奥座敷」とも呼ばれ、日本百名山に選定されている。独立峰のような風格がただよう雄大な山容をもつ。トムラウシはアイヌ語で「花の多いところ」を意味し、頂上付近には、高山植物のお花畑や湖沼などの大自然が残されており、訪れる登山者を楽しませている。

認定理由

1951年結成、2011年に60周年を迎えた山岳会。現在、会員数は50名。定期的に登山を楽しみながら、佐幌岳山頂にある佐幌岳避難小屋、トムラウシ山南沼野営指定地の携帯トイレブースを管理する。野営指定地外に広がるトイレ道の巡回・清掃や植生復元活動、携帯トイレ利用状況調査などを行っている。

認定理由

深刻化する山のトイレ問題への解決に向けた、携帯トイレブースの増設には必要性が感じられる。また、長年地域に根ざして活動している点を評価した。

2019年2月に「日本山岳遺産サミット」を開催します。 特別講演のテーマは「地球温暖化と山岳環境」

9回目となる「日本山岳遺産サミット」、今回も2019年2月下旬に東京・神田神保町のインプレスグループセミナールームを会場に開催します。

第1部では、本年度の日本山岳遺産に認定された4箇所の各代表を招いて認定式を行うとともに、各認定地が抱える課題やその対策としての団体の活動状況を詳しく報告してもらいます。

第2部では、植物繁殖生態学・気候変動生態学などを専門とする北海道大学地球環境科学研究所の工藤岳先生を迎え、「地球温暖化と山岳環境」をテーマに、深刻化する温暖化によって生ずる気候変動が山岳地域の生態系にどのような影響を及ぼすのかを講

演していただきます。

地球温暖化はとてもスケールの大きな問題ですが、山岳地域で長年研究を続けられる工藤先生ならではのお話は、我われ登山者にも身近に、かつ切実に感じられる内容となるはずです。ぜひ「サミット」にご参加のうえ、ご聴講ください。



前回のサミットにて。各認定団体のみなさまと当基金アドバイザーボード、会長との集合写真

本年度、新たに認定した4つの日本山岳遺産。
それぞれの認定地の概要と認定団体の活動内容、そして認定の理由をご紹介します。

山形県・新潟県・福島県

飯豊山

認定団体 特定非営利活動法人 飯豊朝日を愛する会

山の概要

飯豊山(2105m)を擁する飯豊連峰は、大日岳(2128m)、御西岳(2013m)などが十数キロに渡って連なる。磐梯朝日国立公園内に位置し、主稜線は特別保護地区に指定されるとともに、森林生態系保全地域とされている。日本海からわずか50kmしか離れておらず、有数の豪雪地帯ともなっている。飯豊山の開山は白雉3(652)年とされ、古くから山岳信仰の山としても知られる。

認定団体

2007年の設立以来、山形県小国町に事務所を置き、飯豊・朝日連峰において、安全登山の推進(避難小屋や山小屋の維持管理)、植生の復元(裸地化した登山道の被覆や植生調査)、遭難対策活動(登山技術講習会)などを行う。

認定理由

過去10年間の山岳環境保全活動などを評価。一般登山者からボランティアを募って保全作業をすることは、山岳環境保全の意識醸成に効果が大きいと考える。登山道保全による高山草原の復元は必然性が高く、助成対象としてふさわしい。



左・右／飯豊連峰北東部に位置する梶川尾根で、2014年に実施した合同保全作業の様子。作業はボランティアが行うことで山に対する愛情が深まる

栃木県

鹿沼市 岩山

認定団体 機動パトロール隊



左／地域の小中学生を対象とした自然体験学習を実施 右／コース中の危険箇所における安全啓発活動の様子

山の概要

鹿沼市街地の西側に位置し、市民のハイキングコースとしてよく知られる低山(328m・一番岩)。豊富な自然環境が保たれ、イノシシやシカなどが生息する。古くから岩登りの初心者向けの練習場や安全登山講習に利用されてきた。岩質が凝灰岩のため降雨後などは滑りやすく、コース中には鎖やハシゴを利用する場所があり、毎年平均2～3件の滑落事故や遭難事故が発生している。

認定団体

2008年設立。鹿沼市を中心に登山事故防止や安全啓発活動を行う。主な活動として、自治体と連携した山間部でのレスキュー活動、定期巡回による事故防止活動、地域の小中学生に向けた自然体験学習などを実施。その結果、2013年には栃木県知事から感謝状、2016年には鹿沼警察署長より感謝状を授与されている。

認定理由

実際に事故が多発しているエリアなので、早急な対策が求められる。登山届提出箱の設置や安全登山啓発ガイドブックの作成などは、安全登山啓発活動に対する具体性がある。小中学生を対象とした安全登山講習は、次世代登山者の育成にもつながる点を評価。



毎年サミットでは、多くの参加者が熱心に認定団体の活動報告、特別講演に耳を傾ける

今回の特別講演は北大・工藤岳先生。気候変動が山の生態系へ及ぼす影響の研究では第一人者



第9回 日本山岳遺産サミット開催概要

日時	2019年2月23日(土) 13時30分～16時(開場13時)
会場	インプレスグループ セミナールーム 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング(23階) *地下鉄神保町駅下車徒歩3分
内容	第1部: 2018年度活動報告 2018年度日本山岳遺産 認定地/団体 発表 第2部: 特別講演「地球温暖化と山岳環境」 北海道大学地球環境科学研究所 工藤 岳先生
参加費	500円 *日本山岳遺産基金への寄付としてお預かりし、基金の助成や啓発活動に活用いたします
定員	80名 *会場の都合により事前の申し込みが必要です。未就学児の入場はご遠慮ください
申込方法	日本山岳遺産基金のウェブサイト(sangakuisan.yamakei.co.jp)から申し込み
申込締切	2019年2月21日(木) *定員に達した場合、締め切り前でも受付を終了いたします
主催	日本山岳遺産基金・山と溪谷社

「北アルプス安全登山アピール」を後援しました

6月30日(土)、東京・神田神保町で「北アルプス安全登山アピールin東京」が開催され、約90名の登山愛好家が集まりました。

富山、長野、岐阜県の山岳遭難救助隊や自治体などで構成される「北アルプス三県合同山岳遭難防止対策連絡会議」では、7月1日から8月31日までを「山岳遭難防止対策強化期間」としており、その安全登山啓発活動の一環で行われたもの。当基金が後援・協力しました。

当日は、3県の山岳警備隊、山岳遭難救助隊の隊長・副隊長らが

揃い、昨年の遭難事例を紹介。

ジャンダルムで滑落するもヘルメットをかぶっていたために生還できた事例や、残雪の白馬岳

で転倒して遭難したが登山届を提出していたために迅速に救助された事例などがスライドや動画を使って具体的に解説されました。

富山県警察山岳警備隊の小高浩明分隊長は、「遭難は他人事ではないという意識を強くもってほしい」と訴えていました。



トークセッションでは活発な意見交換がなされました

日本山岳遺産認定地のボランティア活動に参加しました

10月28日(日)、日本山岳遺産認定地である入笠山(長野県)で、湿原整備作業が行われました。

当日は事務局もボランティアに参加。ズミの木の剪定や枯れ枝除去などのお手伝いをしました。この活動は、認定団体による入笠ボランティア協会の全体作業のうちのひとつ。ズミの木の剪定に使われたチェーンソーは、山岳遺産基金の助成金で購入されたものとのことです。

入笠山の入笠湿原は、花の宝庫とも呼ばれ、スズランやアヤメな

どたくさんのお花を初夏から秋まで楽しめます。作業当日は、花の時期は終わっていましたが、秋晴れの澄んだ空気の下、44名の会員の方々が汗を流していました。

この日は信越放送のテレビカメラも入っており、作業の様子を取材していました。同じく遺産認定地である霧ヶ峰の活動を合わせて、お正月の1時間番組で放送されるそうです(地域限定)。



ズミの木を手際よく剪定する、入笠ボランティア協会のみなさん

事務局より

当基金にとって一年で最も大きな事業となるのが日本山岳遺産の認定です。本年度は過去最多数の申請のなかから4地域/団体を認定し、おかげさまで過去の認定地とあわせて日本山岳遺産は30地域/団体ということになりました。

また現在、当基金のウェブサイトをリニューアルすべく、鋭意制

作進行中です。2019年の春には新しく見やすいかたちでみなさまにお披露目の予定です。30カ所に増えた日本山岳遺産認定団体の活動についても新ウェブサイトを通じて積極的に広報をしていければと考えております。どうぞご期待ください。

日本山岳遺産基金事務局長 吉野徳生

組織(2018年12月20日現在)

■正会員

株式会社山と溪谷社
株式会社インプレスホールディングス

■会長

川崎深雪
(株式会社山と溪谷社 代表取締役社長)

■監事

二宮宏文
(株式会社インプレスホールディングス 執行役員)

■事務局長

吉野徳生
(株式会社山と溪谷社)

■特別会員

公益社団法人日本山岳会

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会
日本勤労者山岳連盟

■法人賛助会員(50音順)

株式会社アライテント
アルパインツアーサービス株式会社
株式会社コム
株式会社コロニアスポーツウェアジャパン
株式会社システム・クリエート
瀬田工業有限会社
株式会社千秋社
株式会社総合サービス
大日本印刷株式会社
株式会社トラベルギャラリー
日本山岳救助機構合同会社(jRO)
日本費用補償少額短期保険株式会社

株式会社finetrack
有限会社穂高岳山荘
北海道地図株式会社
株式会社毎日企画サービス
株式会社モンベル

■個人賛助会員

1名

■アドバイザーボード

下野綾子(公益社団法人日本山岳会、東邦大学講師)
田中文男(公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会顧問)
西本武志(元日本勤労者山岳連盟会長)
山川陽一(公益社団法人日本山岳会)
野口健(アルピニスト)



日本山岳遺産基金事務局

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング 株式会社山と溪谷社内
TEL 03-6744-1900(代表) FAX 03-6744-1928
http://sangakuisan.yamakei.co.jp/ e-mail: kikin_info@yamakei.co.jp

発行=2018年12月25日